▲流行の魁

新柄ゑり地帶あげ其他種々

取揃へ店頭へ陳列致置候間御散步御來觀被下度候

京城明治町一丁目

ゑり德商店

京城新聞

後藤新平論

余は昨春二月滄浪閣に春畝公を訪ふ、書齋に於て公と談話の半ば刺を通ずるものあり公直に其人を引見す、半白の頭髮狀貌魁偉一見凡骨に非ざるを知る、公余に紹介して曰く之れ後藤新平君なりと、余は後藤が當代の流行兒として其盛名の嘖々たるを聞く一種奇拔の政治的手腕を有し之を大膽に實行するの勇あるを知る、一個の刀圭家より出で、巧に風雲に乘じ優に專門政治家の壘を摩して之に凌駕する材幹あるを認めたり然れども未だ其風采に接して談ずるの機を有せざりき、端なく軟風吹來る大磯潮頭に相見ることを得たり、其豪放磊落の態度、無遠慮の放言、其間一種人を威服せしむる膽識あるが如く思はしむ、渠は自己を廣告するの巧技を有するならんが、唯夫のみに依りて世の推重を買ひ得たるに非らず、慥に自己の進路は自己能く開拓するの手腕を有す、

然り渠は明敏なる頭腦と之を實行するの手腕を有するなり當代の流行兒として盛名を贏ち得たる豈偶然ならんや、渠は慥に時代の精神を會得せり、或る一面より觀察すれば時代精神の權化なり、

試に渠が經歷に徵せよ、其名古屋病院長として板垣退助が岐阜に刺されたるときに乘人が中央政府の思惑如何を氣遣ひ差止めたるに於て渠は衆議を排して其職分を盡くしたり、此際に於て渠は俠骨の稜々たるを世に知らしめて時代の精神を攫へたり、内務省衛生局長たるときに星亨等と共に相馬事件に關係し一片の義氣止み難きの概を世に示したり、日清戰役に際し衛生の任務に鞅掌して快刀亂麻を斷つ的の超凡なる手腕を揮ひたり、其小氣味よき働き振りは端なく兒玉將軍が炬の如き眼光に認められたり要するに渠は隨所其辛辣なる手腕を揮ひて自己の運命を開拓したるなり、

兒玉總督の下に民政長官となり、自由手腕を揮ふに至りて眞柄を遺憾なく發露するに至れり、渠の巨眼は能く時代の精神を看破せり、長袖能く舞ひ多錢能く買ふの眞理を捉へて之を實行せり、惟ふに渠の長所は其所信を斷行するに大膽なる所にあり、所信の斷行に大膽なる當今渠の如きは稀なり、創業の材としては最も珍重するに足る、滿鐵總裁としての渠は未だ見るべきの効績なきも北京に往き露都に乘込み縱橫に快腕を揮へる點は多とするの値あり、渠は慥に人心を新たにする術を諳れり、其一擧一動は常に人心を快ならしむ、此點に於ては我第一流の政治家と雖も渠に及ぶものなし、今や渠は桂内閣の遞信大臣に擬せらる、余輩は渠を以て充分大臣の貫目ありと信ずるも渠の長所は決して閣臣たるに非らずして寧ろ殖民地の長官たるに適材なりと思ふ、渠をして韓國統治に當らしめば大に面目を一新する所あらん、老政治家は往々斷を缺きて機を逸すること多し、高貴なる人爵と老軀は往々顧慮に過ぎて機會に乘ずることを誤る、斯る點に於ては渠の如き新人物は優に老政治家に優るなり、余輩は渠の人格を思ふて我統監政治の現狀に及へば一種の感慨に打たるゝなり、後藤新平論豈偶然ならんや、

●漢城便り

▲西園寺内閣瓦解の爲株式騰上の模樣ありとは東電の報ずるところに有之候今日の輿論の中心はダウニング町ウォルー町にある如く兜町にあるものと相見え申候後繼内閣が兜町に何と見らるゝかは茲四五日の中に明瞭と相成可申候

▲世界の強國中會体のわからぬ元老政治家なるものを有するは我國のみに御座候或外人は我元老を呼ぶにキャピチット、ブロッカアーを以てしたる由に候が記者の觀を以てするも同樣に考られ候節のなきにしもあらず候

▲今や時炎暑には相違無之候大小の官吏諸君が密室中の執務は御苦勞なるには相違無之候而かも諸君の勞を以て彼の暴徒討伐に從事する軍人の勞に比せば少しの辛抱位は出來ざる筈なかるべしと被存候而るに何事ぞ避暑の目的を以て續々の東上記者は諸君の頭上に神佛冥罰の下らざるを不思議に存ずるものに御座候

▲雨季の出來事は每年の洪水に御座候此洪水の爲に鐵道に故障の起るは每年に御座候韓國鐵道にして眞に内地のソレに優れりとせば是非共洪水の害を避くるの方法を講ぜられたきものに御座候已に過日は馬山線に故障あり今度京釜沿道の何れにか大故障の起ることなからずやと杞憂を抱かれ申候

▲京城日報子の言はるゝ通り後藤爵君が新聞の利用に依つて少なくも風袋を大にせられたるは事實ならんと被存候仍是此を見れば伊藤公を大にするも將小にするも御用紙の筆に因ること多からんと被存候併し余りに急に公を大ならしめんとして召出の叱りを御用心肝要に御座候

桑港電報

▲民主黨の政綱

コロラド州に於ける民主黨大會が政綱として宣言せるものは左の如し

●本黨は亞細亞人種移民の入國に反對す

●彼等は我國民と雜婚し同化する事を許すべからず又彼等の入國は遂に人種問題を釀し東洋諸國政府と外交上の爭論を惹起する懼あり云々（十一日東京經由）

東京電報

▲桂内閣の政綱公表

桂内閣は成立と共に政綱を公表して各政黨の去就を待つの態度に出づべしと而して政綱中の重なるものは財政問題ならんと云ふ（十一日發）

▲帝國大學卒業式

東京帝國大學に於ては本月卒業式を擧行せらる 天皇陛下行幸あらせられ優等生十四名に對し恩賜ありたり

▲大學卒業生數 本日擧行されたる東京帝國大學の卒業生は各科を通じて七百六十七名なり（以上十一日發）

▲萬國教育會議と敎科書 文部省は來る九月倫敦に於て開會する萬國教育道德會議に向け小學校敎科書の内容を英文に認め送附すべしと（十一日發）

雜報

●伊藤統監の歸朝

伊藤統監は既報の如く來る十五日出發仁川に下り鎭海灣より十四日入港すべき軍艦吾妻に搭乘し歸朝の途に就かるゝことゝなり鶴原總務長官、岩崎海軍武官、古谷秘書官其他二三隨行の筈なり尙は統監は馬關に上陸せられたる後の行程は未定なりと云ふ

●鍋島外務部長歸朝 外務部長鍋島桂次郎氏は本日出發歸朝の途に就き途次鄉里佐賀に立寄り馬關に出で伊藤統監の一行に合する豫定なりと

●金允植氏の渡日 中樞院議長金允植氏は來る十五日出發伊藤統監と同行し渡日する由なりと

●閔丙奭氏の渡日 宮内府大臣閔丙奭氏は金允植氏と同じく伊藤統監の一行と共に渡日する筈なりと

●三浦理事官交迭 三浦京城理事官は馬山浦理事官に轉任し三增馬山浦理事官は釜山に轉じ釜山理事官龜山理平太氏は京城理事官に轉任せらるべしとの說あり

●梅博士の來韓 法典調査會顧問法學博士梅謙次郎氏は豫報の如く一昨十日午後八時三十分南大門驛着木内倉富の兩次官渡邊大審院長、國分檢事總長、城控訴院長統監府及び各部高等官等多數の出迎を受け天眞樓に投宿せられたり

●財産移屬と歳入增加

宮内府所管及び慶善宮所屬の財産を國庫に移屬せられたる結果驛屯土賭稅約七十五萬圓其の他の財産收入約十萬圓慶善宮所屬たりし財産收入約十五萬圓合計約百萬圓の國庫歳入を增加し皇室費三十萬圓を增加するも國庫は約七十萬圓の歳入を利得する結果となるべしと云ふ

●祭享廢減の確定 本週の大臣會議に於て全國廟祠陵園墓の祭享七百有餘の三分の二を廢減するの決議をなしたる事は既報の如くなるが愈々原案通の裁可を經明日の官報を以て發表せらるべく祭享廢減と共に多數雜吏の淘汰あるべし元來宮内府刷新の重要なる問題は所管財産の整理及び祭享の整理の二項なりしが前者は過日の國庫移屬によりて解決せられ後者は明日の官報を以て發布せられて宮内府に於ける難問題の共に解決せられたるは國家のため悅ぶべし

●裁判所事務の引繼準備 新設各裁判所は八月一日より開廳せらるゝ筈なるが平理院の事務は大審院控訴院へ漢城裁判所の事務は京城地方裁判所に引繼がるゝ次第にして目下新任日本人法官及び書記官は平理院及び漢城裁判所の職員を補佐して澁滯せる事務を處理し引繼準備中なりと云ふ

●郡守推撰の嚆矢 慶尚北道觀察使朴重陽氏は同觀察府事務官白南俊氏を同地郡守に任命すべく内部大臣に推撰し來れりと云ふ此れ今回地方官制改正後に於ける觀察使郡守推撰の嚆矢なり

●監獄署の開廳期 七月一日開廳の筈なりし新設監獄署は各地共準備豫定の如く進行せず延期して明十五日開廳する事となり内部所管より舊事務引繼準備中なり

●江内春潮氏の献上 京都美術學校及び東京日本美術院繪畫科を卒業せし青年畫家江内春潮氏は自家の揮毫に成る繪畫二面左記目錄の通り伊藤統監の手を經て一昨日韓皇帝へ献上したり

一 結氷の釣魚 但大同江上流成川附近の景一面長六尺幅三尺

一 夏の夕陽 但全羅道近海の景一面長六尺幅六尺

●改正の第一銀行券

今回改正されたる第一銀行券に就ては過日の本紙に記せしが今重複を顧みず更に揭ぐることゝせり從來の第一銀行券は流通上不備の點尠なからざりしを以て第一銀行にては數年來之れが改刷に付き日本印刷局に依賴中なりしが何分同局に於ても苦心研鑽を要する事とて容易に捗取らず漸く滿二ヶ年の後改刷を了へ此程當地第一銀行支店へ現送し來りしを以て來る八月一日より改刷せし壹圓券を發行し在來の銀行券と併用流通せしむと云ふ今之れが槪要を列記すれば

△水原府華虹門の眞景 從來の一圓券は精巧なる男爵澁澤頭取の肖像を中央に顯はしたるも肖像は韓人の嗜好に適せざるのみならず忌嫌する風あるを以て之れに更ふるに尤も韓人の喜ぶ風景を配する事となし之れが選擇に非常の苦心をなし結局韓人の崇拜する水原府華虹門の眞景を表面左方に現し之れを唐草模樣にて環圍せり

△韓國々章の漉込み 壹圓券の表面中央には橫楕圓形の空白を設け其中に韓國々章たる李花と巴とを陰陽に漉込めり此の陰陽の漉込みは日本印刷局獨特のものにて日本政府は印刷局の外陰陽の漉込みを法律を以て禁じ居るものにて私人としては之れを眞似する事殆んど不可能なりと云ふ

△苦心の色彩 今回の改刷壹圓券は日本印刷局にて非常に研鑽苦心したるものなれば精巧緻密殆んど理想的のものなるが特に色彩の印刷に至りては未曾有の上出來にて如何に精巧なる寫眞板を用ふるも之れを摹寫する能はず此は印刷局技師態々歐米に出張して同地の色彩印刷術を研究し今回壹圓券に應用したるものなりと云ふ表面の色彩は濃淡二樣の青色と淡紅色とにして裏面は濃紅色と淡青色との二樣に彩れり

△主客の變化 從來の銀行券は韓國海關手形より變化したるものなれば文字の如きも稍々遺憾の點あり諺文の如きは單に裏面に日本兌換券と引換ふるてふ文句のみ用ひたるの外普通韓人の理解せざるを日本文句のみを用ひたるが今回の銀行券は韓國の勅令に依る韓國貨幣たるの立場より全く韓人の了解を主とし多く諺文を用ひ韓人間の流通を主とせり

△巧妙の意匠 貨幣として市場に流通せしむるには種々の條件を要するものなるが先づ僞造贋造を妨止するの意匠を凝すこと實に貨幣の必要條件にして印刷の苦心も亦實に茲にあるものとす若し粗雜なる貨幣を出さんか忽ち僞造贋造現れ貨幣の信用を失墜し一般經濟關係を紊亂することとなり之れより甚だしきものなし故に從來の銀行券は此の點に於て間然する處なかりしも今回は一層此の點に留意し韓國々章の漉込み色彩の巧妙を極むるの外文字模樣の如きは大小陰陽凸凹配置等巧に印刷し其他取扱に便ならしむる爲め稍々小形とし韓國通貨たる事を主眼とせる等意匠の綴密にして用意の周到なる實に至れりと云ふべし

●榮川の狀況

慶尚北道榮川地方は六月上旬頃は賊徒の襲來の風說頻りに傳はり一般人心恂々各其業に安んせざりしが其後來襲の事實を見ず人心の動搖漸次舊に復し現時は何れも安堵の裡に目下植付或は田草取り等の農事に從ひ商業を營む者頗る少なし邑内戶數は二百十三戶人口九百四十八人日本人戶數十五戶人口二十九人（男十七女十二）にして在留邦人は官吏及其家族其大半を占め實業に從事するもの數名に過ぎず官衙としては財務署郵便取扱所警察分署榮川郡衙等なり又交通は頗る不便なり四方山又河を以て圍まれ何れの地に到るも坂路川越をなさざるべからず然るに道路の開鑿行屆かず且河川に橋梁の架設なき爲め現時の如き雨期に際する旅行險惡にして大に困難なり而して古來より物資の集散頗る振はず邑内の住民にして商を營むもの殆んどあるなし從ふて土地の生産物も甚だ少くして自家需用を充たすの外餘裕多からず現下米穀副食物の購求容易ならず郡守に依賴して米靑物を少量づゝ求め居るに過ぎず獸肉鳥肉の如きは求むるに道なく魚の如きも明太魚の外得て望むべからずと敎育も不完全なる私塾學舍三ヶ所ある外敎育機關の設けなく寺小屋敎育に過ぎずと云々

●仁川公園通地料問題 仁川公園地通りの民團貸下地々料低落請願の件は既報せし所なるが同區域にある借家人等が若し家主の提出せる地料低減が民團より許容せられたる時は家賃の大低減を家主に請求せんとて目下寄々相談中なりと云ふ

●京仁貨物列車廢止 京仁間を往復する貨物列車の中南大門發午後八時五十分仁川着後十時四十分及仁川發午後十一時十三分南大門着翌日午前一時〇四分の列車は本夜より右二列車を全廢することにしたりと云ふ

●仁川埋立完成期 仁川稅關前一萬余坪の埋立工事完成期は本月二十日にて今回は更に延期せざる由なれば請負者山西組にては同日迄に竣成を期すべく目下晝夜兼行にて工事の進捗を計り居るも降雨等の障害ある爲二十日迄には多分完成を見る能はざるべしと云ふ

●仁川の米界 久しく沈靜の城を脫せざりし大阪米界は一兩日前より氣配挽回し昨日仁川着電の如きは定期十七圓毫を拔けるを報じたるものから仁川定米界にも影響を及ぼし石二十錢の騰貴を表はし此れが爲め仁川一二貿易商は昨日來既に二千五六百叺の買入れをなし大阪輸出の手續をなしつゝあり

●仁川居留民會 第廿八回仁川民會は愈十四日午後七時より民團樓上に於て開く事となり三四重事件を懸案すべしと

●農工研究 農林業に關し研究の目的を以て劉猷漢、李輔鉉、韓昌會、南廷親、李敬發標重琦、申在政、李源明、安泰承、丁元燮等發起人となり來る十三日設立總會を開催せんと目下北署齋洞李輔鉉方に於て諸般の計畫中にして總會開設の場所は未定なりと云ふ

●各學校の避暑休業 京城居留民團立高等女學校第一、二尋常高等小學校及び庚子紀念幼稚園等は昨日より九月十日迄例年の通り避暑休業をなせり

●仁川小學校の避暑休業 仁川小學校に於ては八月一日より同卅一日迄例年の通り夏期休暇をなすべしと

●水野參事官の敍勳 内務省參事官法學博士水野錬太郎氏は韓皇より勳二等に敍し太極章を賜はりたり

●今村警視の來着 岐阜縣海津郡長にして現官の儘韓國警視に任ぜられ統監府警察署長に命ぜらる可き今村鞆毛氏は一昨夜來着昨日内部に出頭して新任の挨拶をなせり

●裁判所職員の任命 新設せられたる一大審院三控訴院八地方裁判所十六區裁判所の職員は長官以下判檢事書記飜譯官飜譯官補等は韓人共略定員の任命を了し今後任命せらるべきものは書記以下二十余名なりと云ふ

●警視廳警部新任 福井縣警部萩原氏は今回警視廳警部に任ぜられ總監官務を命ぜらる

公人私人

△土屋彦三郎（平壤農銀支配人）仁川にへり

△梅謙次郎（法學博士）一昨日來京天眞樓へ

△角田啓司（農學士）奉天農事試驗場技師の同氏は一昨日來京浦尾へ

△今村鞆（警視）一昨日來京浦尾へ

△大町豊五郎（陸軍二等主計正）同上

●近事片々

▲炎暑 熾にして統監府の諸星頻りに東に上る

▲漢城 漢城暑熱の威力も大也功德も亦偉なる哉

▲漢城 の天候何ぞ威力と慈悲に富めるや

▲酷暑 酷暑は統監及他の諸星を東に奔らしむ

▲統監 歸東鶴原鍋島大屋池田何々と何ぞ東上の多き事ぞ斯く揃ふて東上の要ありや

▲雁燕 啼て曰く我等は統監府員には迚も叶はぬ唯だ一年にても其眞似を試みたやと

▲統監 歸東に李完用宋秉畯を伴はるべしとの噂ありしが亦も閔丙奭も伴はるべしと

▲續々 諸星東上して酷暑中漢城は火の消へたる如く寂寞たらむ從て天下は泰平無事

▲漢城 寂寞の影響は大磯南根鎌倉逗子邊に及ぼし韓國上りの幅を利かし昌大繁昌也

▲昨秋 李載晃行けり今夏は完用丙奭の兩人耳か

▲昨秋 統監歸東には宋秉畯李完用行き後歸東の際祖國民一般公の功績を頌賛して迎へたり今夏の歸東は如何あるべき

▲興士 會にて俞吉濬等の編纂せし敎科書は不認可となる之れ當局の所置を適當とす

▲由來 政權狂の韓人に斯る政治的書物を讀ましむるは燃る薪に油を注ぐに異ならず

▲韓人 は決して政治書を以て興發せしむべからず敎ゆべきは唯科學のみ大に注意せよ

▲俞吉 濬等如何なる考にて斯る敎科書を編纂せし韓人の政權狂は亡國の基ならずや

▲今は 詩を作るよりも田を作るを敎ゆるの時韓民由來數學科學の思想に乏し勉よや

▲現今 採用しつゝある敎科書も改良するの必要非ざるか當局者の注意を望むや切也

▲祖國 新内閣の組織に就て種々の說起る

▲山本 山本權兵衞の中間内閣の如き則ち之ならん

▲山本 内閣の役割は大藏桂司法閣文部一木遞信平田農商濟浦内務大浦海軍齋藤等也

▲陸軍 宇佐川警視總監小松原との顔觸れなりと之を稱して中間内閣とは隨分珍妙也

▲陸相 寺内は迚も重任せず後任は木越と宇佐川の呼聲尤も高し先づ宇佐川のもの乎

▲露國 有名の老將イグナチーフの死を報ず將軍は偉大なる外交家にて夙に盛名あり

▲將軍 は駐清公使として黑龍江省を容易に露の有に收めたる非凡の外交手腕あり

▲軍人 としてはクリミヤ戰爭に拔群の功を建てたり黑鳩將軍杯大に渠の恩顧を受く

▲有名 なるモルガン夫人れ雪の方此頃巴里を經て夫妻手を携へて亦來朝せられたり

▲華美 なる衣服調度を世人に見せびらかして得々たる有樣は矢張ヲシャメン根性也

社告

今回京城新聞を創刊仕候趣意に付ては偏に讀者諸君の御諒察を仰ぎ候微力素より當らずと雖も諸君の御同情に答ふるの覺悟に御座候間何卒舊京城新報同樣御愛顧の程伏て願上候

追而舊京城新報社に關する債權債務其他殘務の一切は當方にて取扱申候に付左樣御承知相願申候

明治四十一年六月七日

京城西署西小門通

京城新聞社

●實業演戲會

八日午後八時三十分より入場官人倶樂部にて實業演戲會を開會せり入場人員百六十七人（內來賓三十五人）別に知名の者なかりしも開會の目的は實業を奬勵する爲め演戲會を開き入場劵の收入金額を大韓實業奬勵會に寄附するにありとか而して總務劉秉徹は實業の何物たるやを說き起し我國民が鐵道滊船の設けなきは實業を研究奬勵せざる結果なれば諸公は此の意を體し誠心研究せられんことを望む云々次て日露戰爭並に皇太子の御渡日留學に關する活動寫眞を映し觀客の喝采を促したり此間叢島牌の立唱を狹み最後に奬勵會通譯鄭興錫は近來の結社集團は遊樂聲の娛樂に過ぎざるの觀ありと喝破し韓國人は近時奢侈の風上下一般に侵染し殆んど其極に達す然るに國力之に伴はず年々輸入超過を見るは寒心に堪へずと奬勵の二字を體し漸進せられんことを望むと演了し午后十一時閉會せり

●汚物掃除の勵行

從來居留地に於ける汚物掃除は一般に不行屆勝なりし爲め居留民にても迷惑を感ずること多く兎角の非難も數ありしに依り今回民團にても默視し難く人夫供給を更迭し尙監督書記も解職して充分なる指揮監督の下に夏期の事にもあり一般の掃除を勵行すべしと云ふ

●自轉車競技會

朝鮮日々新聞社主催の自轉車競技會は本日正午十二時より訓鍊院にて開催の筈なるが日曜と云ひ天候も快晴となりたれば定めて賑ふこととなるべし

●仁川の屠獸數

六月中仁川市內の需用せる牛は三十九頭韓牛三十三頭都合七十二頭にて豚は朝鮮豚十六頭なりたり

●自業自得

銅峴上茶洞三十統居住張泰明（三十）は平素雜貨商を營み居り近頃に至りては相當に小金も溜まり日常の生活には何不足なき身なるが唯儘ならぬ浮世の常として氣の毒な事には其の妻女といふが昨年激しき眼病を病ひ爲めに兩眼の明を失ひし從つて家事向きの何に彼につけて不自由勝なるより張は自分の遠き親戚に當る張元義といふが大邱にて何等の爲すこともなく浮浪し居るを聞き付け先月下旬わざ／＼大邱に赴きて同人を連れ來り店の取り締りやら得意先きの注文取り等に使役し本人も亦當初は主人の命を奉じて立働き居りしが元來此の元義といふ人物は性質が餘りよろしからず近頃に至りて主人の目を掠めては附近の店の貸上金をチョロまかしソレを以て附近の淫賣屋に赴きては馬鹿騷ぎをなし居りしも萬事に賢き張は更らに同人の所行に氣が附かず俺迄律義者よ正直者よと信じ行く／＼は資本を卸して何處かへ一構への店を出しやらんと迄考へ居りしを當人は宜いことにして蔭で舌を出しながらセッセと貢上を摑み出しては例の淫賣屋に入り浸り居りしが斯くしても主人へは少しも發覺せざるより奴さん此の五六日は募る昨今の暑さに連れてグッと逆せ上り此の分ならばドンな我儘をしても大丈夫と許りに增長し淫賣屋通ひの數も以前よりは激しくなりしが現に一昨日午後十時頃同人はヘヾレケに泥醉して家に歸り來り幸ひ主人の不在を宜い事にして主人の妻女の臥し居る內房に入り込み醉に乘じて一言二言卑猥なる冗談を言ひ掛けし揚句今度は不埒にも妻女の手を捉へて怪しからぬ振舞に及ばんとせしより妻女は悲鳴を擧げて近所の者に援けを乞ひたりしが折良くソコへ良人の歸り來たればヤレ安心と良人に向つて事の一伍一什を物語りたりしに張は非常に立腹し有合ふ長烟管を以て元義の頭部を强かに擲り尙摑み掛りて同人を亂打し揚句の果て其の給與せし衣類全部を取り上げて表へ突き出し今から何處へなり出て行けと一喝して門をピッシャリ締めたれば同人も裸のまゝにては何所へとて行く譯にも行かずアイゴ／＼と地に伏して泣き居りしが流石は女心の氣の毒の情を催うしソッと元の衣類を與へ遣りたれば同人は非常に打ち喜びしもサテ金はなし知人はなし什麼にも斯うにも身の振方の附かざれば昨日終に乞食の群に入りたりとは自業自得ところいふべけれ

●小梅の傷心

梅の家の小梅と云へば口八丁手八丁丸ぽちゃの別嬪で一昨年頃から少なからぬ嫖客を垂らし込んだる莫連者たることは粹樣先刻御存じの方もあるべくまた一向御存じ無き方もあるならんが此の小梅クン如何した譯か此頃些つとも浮かぬ顏色御傷心の体たらくなるにぞ此奴可怪しいぞと去る物好が探つて見ると成程所謂ありけり實は小梅の弗旦那兼情夫とも云ふべき或る軍人が他に增す花が出來て鮒の道切りをやつたのはいゝが其の增す花と云ふが頗るの橫着者と見わて小梅にこれ見よがしに當て付くるにぞグッと癪に障りテモ憎い阿魔女よと小梅クン白い眼をしても追付かず何とか挽回策を講じて返報をして遣りたいと苦心慘憺悲の出る程考へて居る矢先肝腎の軍人殿はアバヨとも云はず田舍に轉勤したので小梅クン今更呆氣にとられ悔しいわいなと坐禪豆程の淚をボタリ／＼落しつて恨んだが聞けば軍人殿は小梅クンにこそウンともスンとも音信せぬが一方小梅クン戀敵きの方には安からぬ手紙を度々出したと云ふので何處迄も胴慾な仕打をする人おや如何して此の遺恨晴らさで置くべきかと軍人殿の行方を其の同僚の者に聞いて見ても誰れ一人教へて與るゝ者も無ければ何處に居るかそれすら知らず今は棚の達磨さんにでも小言怨言を云ふの外なき仕儀扨てこそ浮世が嫌になつたと塞いで居る次第何どもハヤ御氣もじ樣

●油斷のならぬ世の中

西部京口前巷德鉉（四十）と云ふは今年十六ばかりの養女を養い居りたるが其の附近に棲む支那巡查廳元と云ふ韓人が豫て小娘を可愛がり何かにつけて菓子や餠などを與へ自家にて遊ばせ居りたるが小娘は此の程家出して行方不明となりたれば德鉉は驚き此奴的切元が誘拐したる者ならんと其旨支那巡捕廳に訴ね出でたるにぞ巡捕廳にても捨てゝも置けず元に就て嚴しく糺したるに實は李、朴、鄭と云ふ三名と共に謀りて德鉉の娘を誘拐し紅門前の支那餠屋に金七十圓にて賣渡したることを自白したれば元、朴、李、鄭の四名は何れも夫れ／＼西部警察に引致され相當の處分を受け小娘は德鉉に引渡されたるが此の德鉉も此の小娘を行々は物にせん下心ある者の如くなるを以て娘を賣つてはならぬぞと念の爲めに說諭を加へられたりと

●避暑案內

▲馬山の海水浴 馬山浦は南韓の一要港にして鎭海灣を控へ京釜鐵道線三浪津より分岐したる馬山線あり、港內は深けれど海水透明にして海水浴に適するの地は至る所にあり而して同地方の氣候穩和なると景勝に富むとは最もこれに適す、加ふるに海魚の鮮なるは同地の特色とする所なれば暑を此海濱に避け、海水に浴したる後一杯のビールを傾けんが其愉快なる想像の外にあるべし

●新町の梯子男

一樓に飮み飽きて他の樓に轉ずるを俗に梯子酒と云ふとか今玆に書き出す話は新町邊にて梯子男と云つて同所に足を入るゝもの何れも不審の眉を顰むる男あり姓を花木と云つて本町邊の某會社の支配人とか事務員とかにて多分の報酬は受けないも兎に角自ら預る金の自由になるからかは知らねど此花木は殆んど每夜の如く新町廓內に足を入れ第一樓に登りては酒色を漁り此樓にて飽けば直ちに飛び出して灣月樓に登り此樓にても亦た酒色を漁りては又た飛び出し高島屋に登ると云ふが最後の打止めにて斯く三樓を懸けての梯子遊びすること殆んど每夜の如くにて之れが爲め費消する錢も少からざるべきに僅かの報酬にて如何にして斯く度々の遊びが出來るかと不思議に思ひ誰れ云ひ出したりとなく同地廓內にては梯子男の評判專らなりとの投書其まゝ

●師範生徒の窃盜

京城南大門外自芝味十一統八戶師範學校二年生尹炳琦（十二）は七日同校長より校內掛時計・側眞鍮製灰落三個盜難に罹りたる旨屆出に接したる中部警察署は加害者搜索中同日午後八時頃尹は時計及灰落を中部中學校生淸國人に賣渡さんとする現行を巡查發見逮捕したるを以て取調の上刑事訴追に付し贓品は全部被害者に下渡したり今其惡心を生じたる原因は夏期試驗後生徒一同等が宴會を開く費用の出所に窮したる末終に窃盜を働きたりと

●車夫を蹴る

一昨十日午後六時頃銅峴卅統三戶藥商崔聖卿方雇人竹洞居住の玄東般（三十）と云ふが草洞居住の桝基榮（四十）と云ふ老ぼれ車夫に嘗て金四圓を貸與し置きたるも返さず催促したるに基榮は金の無い自暴から捨鉢の惡体を吐きたるに立腹し蹴倒したり訴に依て警官出張し東般を引致し說諭を加へ示談にて事濟みとなりたり

●腸窒扶斯

南部銅峴高橋辨護士方事務員鈴木運三郎（二十八）は腸窒扶斯に罹り靑坡病院に送られたり

●韓人の天然痘

南署廣通坊茶洞四十統十戶李大吉（四つ）は一昨日天然痘に罹る

●日本メソジスト敎會の日曜

朝十時禮拜說敎會を開き「不完全と罪惡」と題する說敎あり夕八時よりは傳道說敎會あり數名の講話並傳道說敎ある筈なり

●日曜講壇

日の出町京城基督敎會にては本日午前九時より日曜學校同十時より禮拜宗像鳴四郞氏の「憂愁のソウル」と題する說敎あり午后八時より岡山孤兒院出張員小野田氏の同院に關する講演あり參聽隨意

暑中はがき

光岡竹子樣へ

メッキリ御窶れなされ候樣見受け申候今日此頃の天氣加減にも依るならんもまた餘りいろ／＼御氣を遣ひなされぬがよろしかるべくと存じ候どうせ嫉妬心の强きは漢城の貴婦人のみには之れ無く候故向うが貴婦人ならば此方は右大人よと其處は從來通り最と橫柄に御執なし成さるべく候御良君の椅子は格別固うなりたるやに聞き及び候へば何も快々なされずともまた花の咲く時も來るべく御妹君見た樣に些と浮々なさる方御身の爲めかと存じ參らせ候先はあら／＼かしこ

（小）（民）（文）（扉）

▲夏季だけは是非婦人町に每月少くなくとも二回は大淸潔法を施行して貰いたい臭くて步けはしない（注文取）▲京城で一番の別嬪は誰れだらう（助次郎）▲待合茶屋の妻君が臺北に於ける全盛を知つて居ますか（匿の字）▲南山町に美人館あり新聞社さん探して御覽（注進生）▲暑中休暇を利用して每日貴紙に揭ぐる避暑案內に隨ひ漢城內外の勝地を探らうと思ふ同感の士は平民文庫で姓名を知らせ玉へ手を携へて杖を曳きましよう（ケ、ト生）▲降れば鬱陶しい晴れば暑い何とか仕樣は無い者か知ら（自我生）▲花月の辰子さん最うサックを篏めたらば擧の人と嫌與は出來るでしよう（日永短氣）▲此の節の樣に不景氣だと全くやりきれぬ（泥唲の商人）▲巡查は炎天に立盡くして居るヨボは其の傍で小便をコイテ居る南大門は古來の夢未だ醒めぬ砂塵は牛車の上を這ふて居る（通行人）▲湯上りで美人で冷麥酒でサラダで凉風で每日を送りたい（唯肉生）▲サモしい人なり這麼無益の投書は眞平（係り）▲電車値上げ以來何等の改善も施さず市民を愚にするも甚しと云ふべし（△生）▲龍山迄二十錢を出して電車に乘つた而かも中途で一時間以上停車とは驚いた（同人）

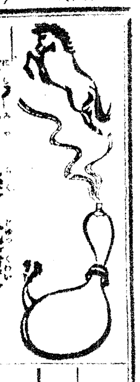


●天氣豫報（自十一日午後六時 至十二日午後六時）

西の風晴

十一日午前六時各地氣象概況 南又西の風吹き概ね曇天にして木浦に濃霧あり





西の宮た樂の述懷（廿七）

◎八百藏に回り合ふ

話は變りますが其の時分市川八百藏が仙臺へ乘り込むことゝなつたのです私は八百藏さんとは東京から懇意にして居りますから乘り込んで來たならば出來る丈景氣を附けてやらうと思つて居つたのですスルト或る晩お茶屋さんから私を呼びに來たのでムいます私は普通のお客の積りで出掛けて行つて見ると『ヤアおらく〳〵さん什麽もお久し振りですね……マア〳〵此方へ〳〵』と言はれ顏を上げて見て驚きました『マア親方……眞正にお久しいぢやありませんか其の後お變りもなく……』『イヤお前さんもお達者で……然し仙臺へ來てお出での事は例のから聞いて居りましたが……』『イヽエ東京を喰ひつめてコンナ田舍へ島流しに逢ひましたので』『併し仙臺は仙台で又東京にない面白い事が大有りでせう……那の方でなくちやア……』といつたやうな意氣筋が出來て今ぢやアお江戸の風が厭になつて居るんぢやありませんか』『什麽してソレ所でせうか近頃はホントにザマアありません……時にお前さんの妓は其の後什麽しましたネ』『那の方がネ實は妙な事から別れ咄になつてチイヤ若い仲間が後から〳〵出て來ますもんで手前共のやうなお爺さんはもう御用なしとお出でなすつたのでせう……』『ソンナ馬鹿な事が……併し那の妓も親方には眞底逆せて居たんでしたがネ……』『其の咄はマア〳〵其の邊で淺黃幕の振り落しとして頂いて……一ツお前さんに折り入つてお願ひがあるんですがネ』『お頼みつて如何な事……私で出來る事ならソリヤアもう……』『外ぢやないのですが私が今度此仙臺へ一芝居打たうといふ事になりましたについちやア如何かマア日限通り客留の札を揚げる迄の上景氣迄でなくとも見すぼらしい事はしたくないソレにや什麽してもお前さん方の御連件にワアッと景氣を附けて頂かなきアなりませんのですが……私は此の仙台へは初めてゝ其の方のお方にやア一人もお近つきが無いので實の所大に閉口して居るのですが幸ひお前さんが此の稼業をして居らつしやるが何よりの力賴み什麽かお馴染甲斐に、と骨折つて頂く譯にやア參りますまいか』と八百藏さんの咄がダン〳〵眞面目になつて來る『エ、イ私見たやうなものが什麽せ緣な事は出來はしませんが出來る丈一生懸命になりまして盡力いたしますが……オヽソウ〳〵親方宜い事がありますヨお前さんさへ頭を下げる積りなら私お引合せをする人があるんですがネ……什麽です親方一ツ頭を下ることゝなすツちやア（つゞく）

●新聞料　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金拾錢
●廣告料　▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人　秋山忠三郎
印刷人　高木久馬太
發行所　京城西署西小門通　京城新聞社　電話六六三番